

[普及事項]

成果情報名：リンゴ‘ゆめあかり’は‘ふじ’と同日のNAC水和剤散布で薬剤摘果できる

研究機関名 果樹試験場 生産技術部・品種開発部
担 当 者 高橋 功・照井 真

[要約]

本県育成のリンゴ‘ゆめあかり’に対し、‘ふじ’と同日にNAC水和剤1,200倍を散布すると側果の2～3割が落果する。中心果は十分量が確保され、さび果などの果面障害もみられないので、粗摘果作業の省力化が可能である。

[キーワード]

ゆめあかり・摘果剤・NAC水和剤・省力化

[普及対象範囲]

県内リンゴ栽培地域

[ねらい]

リンゴ生産者は栽培面積が多い‘ふじ’の摘果作業を省力化するため、NAC水和剤(商品名：ミクロデナポン水和剤85)を摘果剤として利用している。そこで、‘ふじ’にタイミングを合わせた1回散布による、本県育成品種‘ゆめあかり’の摘果効果を確認する。

[成果の内容及び特徴]

- 1 ‘ゆめあかり’の満開日は、‘ふじ’より1～3日遅いため、‘ふじ’より早い生育ステージでの散布となる(表1)。
- 2 ‘ゆめあかり’に対し、NAC水和剤1,200倍液を、‘ふじ’と同日散布すると、側果の6～7割が落果するので、摘果作業の省力化が図られる(表2)。
- 3 過剰摘果の心配はなく、中心果が10果そう換算で8～9果確保されるので、‘ふじ’との混植園において同時散布する場合や、ドリフトした場合でも支障がない(図1)。
- 4 果実にさびなどの障害はみられないが、果そう基部葉が黄変落葉することがある(図2)。

[成果の活用上の留意点]

- 1 ‘ふじ’など他の品種同様、散布の要否は結実状況に応じて判断する。
- 2 薬害の発生は樹勢や気象条件による影響が大きいが、‘ゆめあかり’の場合、ニーズなど浸透性が高い展着剤を使用すると黄変落葉を助長する可能性がある。

[具体的なデータ等]

表 1 散布時の生育ステージと加用した展着剤

表 1 散布時の生育ステージと加用した展着剤

試験年	散布月日	満開後 日数 (注1)	加用した展着剤の種類	
			剤名	希釈倍数
2018年	5月21日	11 (14)	ニーズ	1,000倍
2019年	5月22日	12 (13)	アイヤー	10,000倍
2020年	5月23日	12 (14)	ラビデン3S	10,000倍

注1：括弧内数値は場内‘ふじ’定期調査樹の満開後日数

表 2 NAC水和剤散布時の果実の大きさと摘果効果

試験年	試験区 (供試樹数)	調査 果そう数	中心果横径 (mm)	散布前着果数		散布後着果数		落果率 (%)	
				中心果	側果	中心果	側果	中心果	側果
2018年	散布区(4樹)	20.0	8.5	20.0	80.0	16.5	33.5	17.5	58.2
	無散布(1樹)	20.0	9.0	20.0	—	18.0	49.0	10.0	—
2019年	散布区(3樹)	21.7	11.1	21.7	87.7	20.7	27.0	4.7	69.2
	無散布(1樹)	25.0	10.8	25.0	102.0	24.0	60.0	4.0	41.2
2020年	散布区(3樹)	30.0	7.8	30.0	113.0	26.0	35.3	13.3	69.0
	無散布(3樹)	30.0	7.7	30.0	115.0	27.7	66.7	7.8	41.8

注1：表中の数値は1樹当たりの平均値（2018年の無散布の散布前側果数は未調査（—））

注2：2018年と2020年は散布16日後、2019年は散布20日後に結実調査を実施

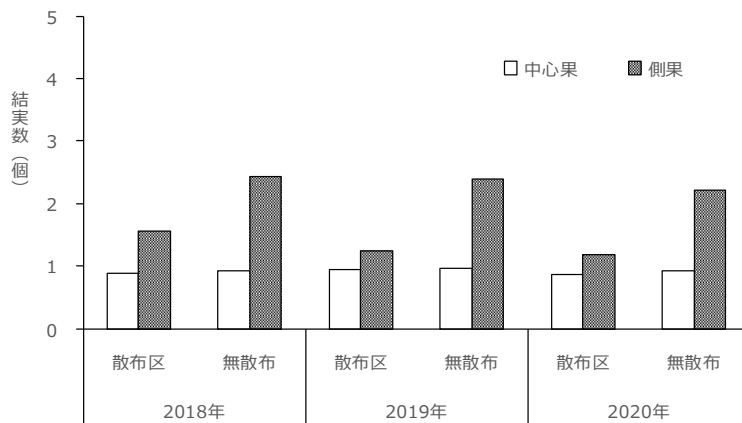


図 1 NAC剤散布後の‘ゆめあかり’の1果叢あたり平均結実数

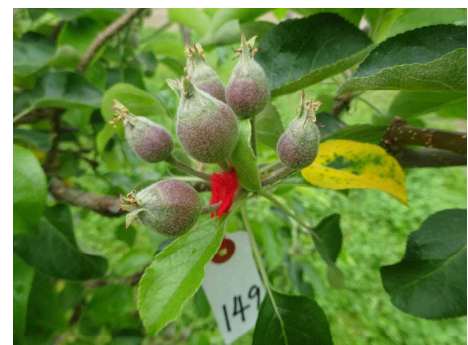


図 2 果そう基部葉の黄変(円内)
(2018年試験：ニーズ加用散布)

[その他]

研究課題名：オリジナル品種に対する摘果剤の処理効果

研究期間：平成30年度～令和2年度

予算区分：その他

掲載誌等：なし